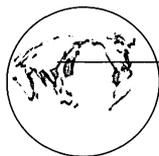


## 海外動向

## アメリカでの Dr.Taguchi お別れ会



田口 伸\*

Shin Taguchi

品質工学会名誉会長田口玄一のお別れ会が米国ミシガン州のNovi Sheraton Hotelにて2012年11月29日に開催された。参加者は75名であったが、暖かい雰囲気の中、ディナーとカクテルがASI Consulting Group主催で振舞われた。スピーチと孫娘3人のオムレツ実験の発表、「Do you really know Dr.Taguchi?」という勝ち抜き戦のクイズなどで盛り沢山の3時間のイベントであった。スピーチは、ロケットエンジンのRocketdyne社のBill Bellows博士、元ベル研究所のRoshan Chaddha博士、ミズーリ大学のKen Ragsdell教授、元ゼロックスCEO Wayland Hicks氏、元フォード社John King氏、Tim Davis博士、Bob Moesta氏であった。

Moesta氏は大学時代Ford社のインターンとしてTaguchi Methodに出会い感銘を受け、その後企業内での普及に不満を持ち、今はQEやQFDを利用

して委託された技術や商品の設計開発をする会社を自分で経営している。いずれにしてもドクター・タグチの人柄や功績が彼等のスピーチによってさまざまなスタイルで紹介された。今年8月5日にJSM2013という北米最大の統計学会の会合においてGenichi Taguchiメモリアルセッションがモントリオールで開催される。著者も発表するが、メンバーはPhadke氏、Nair氏、Jeff Wu氏など86年のGeorge Box教授の日本ミッションのメンバーが中心である。欧米の統計の世界において、タグチの功績は大きいというのが一般的な評価である。

ただ制御因子間の交互作用の問題、SN比、累積法、 $L_{18}$ に関しては、反対の立場をとる者も多いのが事実である。ロバストネスの考え方、ノイズを能動的にとる戦略（戦術かもしれないが）、損失関数、技術の世界において実験計画をするという姿勢などは、大いに受け入れられている。

